



# 節分祭斎行さる

春よ来い早く來い

赤いほっぺで待つていて

は、園児達の可愛い歓声で眼わ

た。午前8時より斎行された恒例

づづいて「豆打ちの儀」が行なわ

た。この節分は、神事のあと祈願殿前

れた。

清之氏を始め、示像消防本部消防

長・宗実、西瀬田の里会長・龍

口浩明、田島重良・吉武敏道

氏ほか郡内協力団体幹事有志が神

姿で「鬼は外、福は内」と、大豆

五十キロ、紅白の手わら葉子が

入ったビニール袋をまわる。

神事に参列した郡の連幼稚園

園、東部児童園、立派幼兒園、ナ

ースリールーム等の園等三百五

十名のお母さん達や、贈り物さ

らの豆ひきいでいた。

このあと、園児等は開殿式於

いて、福岡県交通部差役監察署

のあと、園児等は開殿式於

交通巡視員による「児童交通安全

教室」に出席した。

交通巡視員のお嬢さん達による

人形、紙しばいで交通安全公約勉

強と腹話術によって児童達によ

るお話を園児等は開殿式於

かして話しかけていた。

境内では、バトレー、白バイの

見学があり、児童達は、白バイ

のマイクを持って、「カラスなぜ

泣くのか?」と、カラスは山に……と

飛び出で、同伴のお嬢さん達

から、ヤンヤの喝采をひいた。

にも見られ

て、これは略す

稻荷大社の神仏分離

伝統を復興されるに至ったので

稻荷神社と眞言宗との関係は空

海以来極めて密接にして、空港が

最も重要な位置を占め、その他の神社

が一時幾度傾いた當時には、眞言

宗信徒は殆ど去って本廟所は無

住状態であった。文禄年間に至

て、無縫の門入り使って本廟所住

職を主張して以降、仏教関係の堂

舎も次第に増設されて、眞言宗の

供養院は同年六月五日太政



今年の年男は、氏子食事・中村

清之氏を始め、示像消防本部消防

長・宗実、西瀬田の里会長・龍

口浩明、田島重良・吉武敏道

氏ほか郡内協力団体幹事有志が神

姿で「鬼は外、福は内」と、大豆

五十キロ、紅白の手わら葉子が

入ったビニール袋をまわる。

神事に参列した郡の連幼稚園

園、東部児童園、立派幼兒園、ナ

ースリールーム等の園等三百五

十名のお母さん達や贈り物さ

らの豆ひきいでいた。

このあと、園児等は開殿式於

いて、福岡県交通部差役監察署

のあと、園児等は開殿式於

交通巡視員による「児童交通安全

教室」に出席した。

交通巡視員のお嬢さん達による

人形、紙しばいで交通安全公約勉

強と腹話術によって児童達によ

るお話を園児等は開殿式於

かして話しかけていた。

境内では、バトレー、白バイの

見学があり、児童達は、白バイ

のマイクを持って、「カラスなぜ

泣くのか?」と、カラスは山に……と

飛び出で、同伴のお嬢さん達

から、ヤンヤの喝采をひいた。

にも見られ

て、これは略す

稻荷大社の神仏分離

伝統を復興されるに至ったので

稻荷神社と眞言宗との関係は空

海以来極めて密接にして、空港が

最も重要な位置を占め、その他の神社

が一時幾度傾いた當時には、眞言

宗信徒は殆ど去って本廟所は無

住状態であった。文禄年間に至

て、無縫の門入り使って本廟所住

職を主張して以降、仏教関係の堂

舎も次第に増設されて、眞言宗の

供養院は同年六月五日太政

令第7年(1578)の荷田御殿頼家が神祇

伯への注連状に記載れば、

「一、大黒堂、大日真言寺由来有

て、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

當神興廢石散鐵舟所日々勤め候

事、御修院等、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

染寺はあるが、彼に至るまで、住

む無縫の門入りを使って本廟所住

職を主張して以降、仏教関係の堂

舎も次第に増設されて、眞言宗の

供養院は同年六月五日太政

令第7年(1578)の荷田御殿頼家が神祇

伯への注連状に記載れば、

「一、大黒堂、大日真言寺由来有

て、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

當神興廢石散鐵舟所日々勤め候

事、御修院等、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

染寺はあるが、彼に至るまで、住

む無縫の門入りを使って本廟所住

職を主張して以降、仏教関係の堂

舎も次第に増設されて、眞言宗の

供養院は同年六月五日太政

令第7年(1578)の荷田御殿頼家が神祇

伯への注連状に記載れば、

「一、大黒堂、大日真言寺由来有

て、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

當神興廢石散鐵舟所日々勤め候

事、御修院等、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

染寺はあるが、彼に至るまで、住

む無縫の門入りを使って本廟所住

職を主張して以降、仏教関係の堂

舎も次第に増設されて、眞言宗の

供養院は同年六月五日太政

令第7年(1578)の荷田御殿頼家が神祇

伯への注連状に記載れば、

「一、大黒堂、大日真言寺由来有

て、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

當神興廢石散鐵舟所日々勤め候

事、御修院等、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

染寺はあるが、彼に至るまで、住

む無縫の門入りを使って本廟所住

職を主張して以降、仏教関係の堂

舎も次第に増設されて、眞言宗の

供養院は同年六月五日太政

令第7年(1578)の荷田御殿頼家が神祇

伯への注連状に記載れば、

「一、大黒堂、大日真言寺由来有

て、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

當神興廢石散鐵舟所日々勤め候

事、御修院等、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

染寺はあるが、彼に至るまで、住

む無縫の門入りを使って本廟所住

職を主張して以降、仏教関係の堂

舎も次第に増設されて、眞言宗の

供養院は同年六月五日太政

令第7年(1578)の荷田御殿頼家が神祇

伯への注連状に記載れば、

「一、大黒堂、大日真言寺由来有

て、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

當神興廢石散鐵舟所日々勤め候

事、御修院等、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

染寺はあるが、彼に至るまで、住

む無縫の門入りを使って本廟所住

職を主張して以降、仏教関係の堂

舎も次第に増設されて、眞言宗の

供養院は同年六月五日太政

令第7年(1578)の荷田御殿頼家が神祇

伯への注連状に記載れば、

「一、大黒堂、大日真言寺由来有

て、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

當神興廢石散鐵舟所日々勤め候

事、御修院等、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

染寺はあるが、彼に至るまで、住

む無縫の門入りを使って本廟所住

職を主張して以降、仏教関係の堂

舎も次第に増設されて、眞言宗の

供養院は同年六月五日太政

令第7年(1578)の荷田御殿頼家が神祇

伯への注連状に記載れば、

「一、大黒堂、大日真言寺由来有

て、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

當神興廢石散鐵舟所日々勤め候

事、御修院等、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

染寺はあるが、彼に至るまで、住

む無縫の門入りを使って本廟所住

職を主張して以降、仏教関係の堂

舎も次第に増設されて、眞言宗の

供養院は同年六月五日太政

令第7年(1578)の荷田御殿頼家が神祇

伯への注連状に記載れば、

「一、大黒堂、大日真言寺由来有

て、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

當神興廢石散鐵舟所日々勤め候

事、御修院等、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

染寺はあるが、彼に至るまで、住

む無縫の門入りを使って本廟所住

職を主張して以降、仏教関係の堂

舎も次第に増設されて、眞言宗の

供養院は同年六月五日太政

令第7年(1578)の荷田御殿頼家が神祇

伯への注連状に記載れば、

「一、大黒堂、大日真言寺由来有

て、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

當神興廢石散鐵舟所日々勤め候

事、御修院等、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

染寺はあるが、彼に至るまで、住

む無縫の門入りを使って本廟所住

職を主張して以降、仏教関係の堂

舎も次第に増設されて、眞言宗の

供養院は同年六月五日太政

令第7年(1578)の荷田御殿頼家が神祇

伯への注連状に記載れば、

「一、大黒堂、大日真言寺由来有

て、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

當神興廢石散鐵舟所日々勤め候

事、御修院等、御佛頭之、之、下、拂除之儀堅所事

事、左庭之通三御殿候。

染寺はあるが、彼に至るまで、住

む無縫の門入りを使って本廟所住

職を主張して以降、仏教関係の堂

舎も次第に増設されて、眞言宗の

供養院は同年六月五日太政

令第7年(1578)の荷田御殿頼家が神祇

伯への注連状に記載れば、

「一、大黒堂、大日真言寺由来有



